

# 子ども中心の地域づくりに求められるリエゾンとは

「地域の色・自分の色」研究会(照山龍治、木村典之、幸野洋子、山崎朱実、塩月孝子)  
学習院大学文学部教授(東京大学名誉教授) 秋田喜代美

## 1.教材づくり・検証実践

### 2020 年度

- ①.「色」を通して自然や歴史文化から「たからもの」を、  
見つける入門教材「ふるさとのたからもの」を作成。
- ②.学校園で検証実践→「身近な教材と実体験が学級ぐるみに」
- ③.授業研究会(大学、県教委、市教委、小学校、幼稚園等)  
→「身近な自然等を活用する教材づくり及び学校と地域を  
繋ぐ仕組みづくりが必要」
- ④.こども「色」博物館 開催(実践で生まれた作品と教材展示)  
→来館者から、付箋紙で、「自然に生まれた赤色、不思議  
です」「良い経験になって、良い思い出にもなります」  
など、81件のご意見。



第1回血の池地獄「こども『色』博物館」

### 2021 年度

- ①.子どもたちが不思議と捉えたことを、「色」の違いや変化から、調べる探究教材「ふるさとのふしぎ」、幼稚園での色あそびの実践記録「ふるさとのいろあそび」を作成。
- ②.3つの教材は、県立図書館、別府市立図書館や別府市の幼稚園・小中学校に置き、活用についてアンケート調査。  
→「ふるさと学習に有効」+「授業に活用できる」、その一方で、「学校・家庭・地域の連携には、ひと工夫」
- ③.血の池地獄などに、「こども『色』博物館」設置。

その中で、作品、教材、研究成果などを展示。

来館者から、付箋紙で、  
「こんなことが出来る貴方たちがうらやましい」  
「地域資源を見直した」  
など、162件のご意見。



鬼石坊主地獄「こども『色』博物館」



第2回血の池地獄「こども『色』博物館」

### 2022 年度

- ①.別府市立鶴見小学校と国東市立安岐中央小学校で、それぞれの「ふるさとの宝物」を探究する実践と交流授業。



- ②.地域と地域を繋いで、「ふるさとのたからもの」を確かなものにする学習材「ふるさとのだいち」を作成。

### 2023 年度

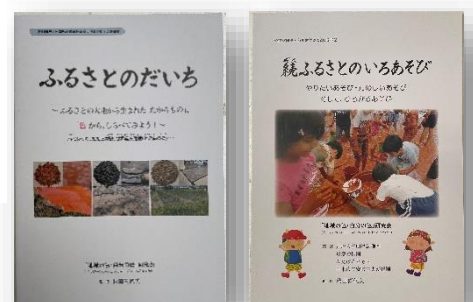
- ①.園児の色あそびの手引き書、学習材「続ふるさとのいろあそび」を作成。いろいろな地域での実践記録とその動画を加えた。



第3回血の池地獄「こども『色』博物館」



教材コーナー



## 2.活動の中で、浮き彫りになった課題、そして、求められる「リエゾン」

### ①.地域(地場企業を含む)では、

「地域の未来を担う子どもたちに、私たちの地域資源を活用してもらうことは、「私たちの喜び」、その一方で、「持っている地域資源を子どもたちの教育にどのように活用できるのか、活用方法がわからない」、「学校との繋がりが無い」



### ②.学校や幼稚園では、

「地域学に色という視点を入れて焦点化すれば、子どもたちは学びやすい」「身近な教材の活用は、学校ぐるみ、家族ぐるみ、地域ぐるみの学びに向かう」

その一方で、「地域教材を探す余裕がない」「地域資源の活用方法がわからない」「適切な教材(手引書)が無い」

### ③.地方行政・教育行政では、

「地域資源の活用は地域創生に必要」「地域学は子どもたちの地域教育として学校でしっかりやってもらいたい」

その一方で、「学校の自主性が大事」「地域との連携は学校主体」

### ④.異なる価値観・キーワード(学校、企業、地域、行政)

地域「現状維持」「地域慣習」、企業「安定経営」「利益優先」、

学校「学校安全」「学力向上」、行政「予算主義」「3年で効果検証」



### ⑤.長い年数が必要な人材育成

「幼児教育」「義務教育」「高等教育」など、人材育成は10年以上の教育期間が必要

⑥.そのため、子ども中心の地域づくりには、異なる価値観を持つ、教育施設(学校や幼稚園、こども園)と地域(企業、住民)、行政(地方行政、教育行政)を繋ぎ、「仲介」「橋渡し」を行う「リエゾン(中間組織)」が必要。

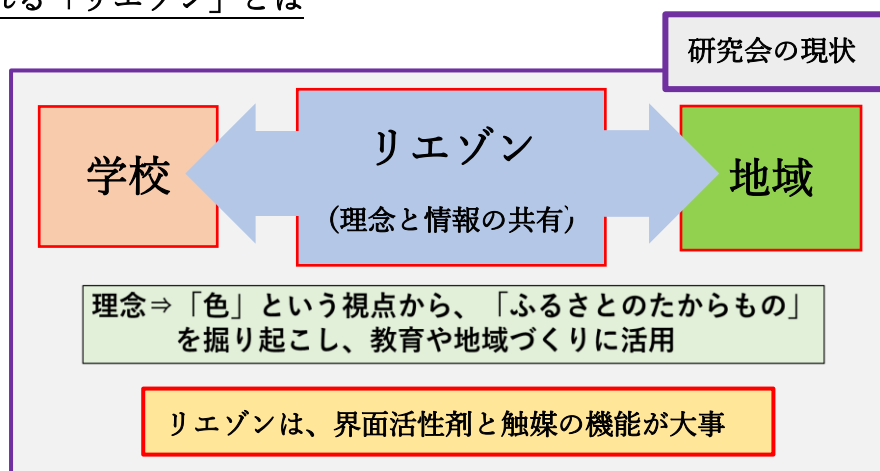
## 3.子ども中心の地域づくりに求められる「リエゾン」とは

### ①.求められているリエゾンの機能

理念を共有し、自身は変化せずに、価値観の異なるものを親和させ、反応を促進させる機能と考えた。

### ②.多様な人材でリエゾンを構成

多様な会員が、親油基・親水基となり、価値観の異なる組織を繋ぐ。会員の多様な思いは、理念と議論で馴染ませる。



## 4. 今後の研究会の活動ビジョン

①.当研究会は、「子ども中心」「色の視点」「探究学習」という理念を共有する幼・小・中の教員や行政経験者、学識経験者など様々な人材により構成されている。

②.これまで、求められるリエゾンに向けて、「色」を通し、「綺麗」といった感動から、地域ぐるみで、地域の自然や歴史文化を学び合う教材・学習材づくりと研究会ホームページの整備・活用に取り組んできた。

③.今後は、作成した教材・学習材と、掘り起こした地域資源を活用しながら、学校・園と地域を繋ぎ、「子ども中心」「私たちのふるさと」という思いを地域ぐるみで共有し、「ふるさと学習」や「地域創生」をさらに進めていくとともに、研究会のホームページを活用して、作成した教材・学習材の原稿や活動の様子、研究成果を広く公開し、子どもたちが、さらに広い世界に、「漕ぎ出す」「飛び立つ」ことを願いながら、活動を続けていく。

「地域の色・自分の色」研究会 <https://museum.o-iro.jp/>

